

対象期間：2022年4月1日～2023年3月31日

2022年度

環境経営レポート



作成 2023年11月30日

<p>・微粒子技術で“新しい可能性の共創”</p> <p>Ashizawa</p> <p>アシザワ・ファインテック株式会社</p> <p>〒275-8572 千葉県習志野市茜浜 1-4-2</p> <p>TEL.047-453-8111(代) FAX.047-453-8378</p>	承認	確認	作成
	代表取締役 社長 加藤 '23.12.05 厚宏	環境管理 責任者 伊 '23.11.30 藤	事務局 三 '23.11.29 宅

目 次

	頁
1. 事業活動の概要	2
2. 対象範囲	2
3. 製品紹介	3
4. 環境経営方針	4
5. 組織図	5
6. 実施及び運用	6～8
7. 取組状況の確認及び評価	8
8. 代表者による評価と見直し	9
9. 2021 年度活動計画と実施内容	10
10. 環境配慮の取り組みと社会貢献活動	11

1. 事業活動の概要

1-1. 事業社名及び代表者名

アシザワ・ファインテック株式会社

代表取締役社長 加藤 厚宏

1-2. 事業の規模

	単位	2022 年度
売上高	百万円	3,193
従業員数	人	157 (2023 年 3 月末)

1-3. 所在地

- ・本社工場 〒275-8572 千葉県習志野市茜浜 1-4-2
- ・大阪支店 〒564-0082 大阪府吹田市片山町 4-15-13
- ・微粒子技術研究所 〒323-0034 栃木県小山市犬塚 2-6-10

1-4. 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

管理責任者 設計課・プラント課・人事総務課担当部長 伊藤 崇博

事務局 人事総務課主査 三宅 教彦

連絡先 人事総務課主査 三宅 教彦

TEL : 047-453-8115 FAX : 047-453-8378

1-5. 事業内容

分散機・微粉碎機・混合機・混錬機・押出機的设计、開発、製造及び受託加工

2. 対象範囲

認証・登録番号 : 0000025

認証・登録年月日 : 2004 年 11 月 15 日

認証・登録事業者名 : アシザワ・ファインテック株式会社

対象事業所名 : 本社工場、大阪支店、微粒子技術研究所

対象活動 : 分散機・微粉碎機・混合機・混錬機・押出機的设计、開発、製造及び受託加工

3. 製品紹介

＜乾式および湿式ビーズミルを利用したエコ粉砕＞

連続式 乾式ビーズミル

ドライスター[®] **特許**



大流量循環運転専用 スタンダードミル

スターミル[®] **LMZ**



＜ドライスター＞

100～150 μ m 程度の原料を1パスでシングルミクロンまで粉砕する連続式 乾式ビーズミル。エネルギーコストも他の粉砕機（ボールミルやジェットミル）と比較すると極小に抑え、粒度コントロールも容易なため、効率よくシャープな分布を得ることができます。

＜スターミル LMZ＞

大流量循環運転専用のビーズミルで、特許の遠心分離スクリーンにより、ビーズがスクリーンに引き起こす様々な問題を解決。小型機から大型機までスケールアップが可能です。

＜エコ粉砕＞

また、湿式ビーズミルとの組合せにより、湿式のみでの処理と比較して、省エネでの処理（エコ粉砕）とコンタミネーションを抑制した処理が可能です。

4. 環境経営方針

当社は、微粉碎・分散技術のプロ集団として、環境との共生・調和への取組みを最重要課題として以下の環境保全活動を推進します。

1. 微粉碎機・分散機の製造販売の全事業活動において、JISQ9001：2015 に合致する品質方針に基づき業務を遂行し、省資源・省エネルギー・資源環境・エコライフなどに配慮した製品を提供します。
2. 環境保全に関する法規則を遵守することはもとより、可能な範囲で自主基準を制定し一層の環境保全に取り組めます。
3. 環境汚染を未然に防止すると共に、保全活動を推進するため、環境経営システムを構築し、全ての組織で運営し、継続的に改善向上を図ります。
4. 事業活動の中で、特に以下の項目について重点的なテーマとして保全活動を推進し、環境目標を設定し、必要あれば目標を見直すなどの効果的な取組みを行います。
 - (1) 「環境への負荷チェック」の結果、事業活動の中で特に、二酸化炭素排出量、廃棄物排出量、総排水量について環境負荷低減の改善目標値を設けて目標管理します。
 - (2) 化学物質使用量は適正に管理していることを定期的に確認します。
 - (3) 廃棄物量削減のために適切な分別を推進し、再資源化に協力的な収集業者に処理を依頼します。
 - (4) 製品ならびにサービスの環境配慮については、省エネかつ廃棄物の少ない、環境に配慮した部品や工法の採用を推進します。
 - (5) 緑化協定を遵守し、保守整備を計画的に実施し、地球温暖化抑制運動の推進に努めます。
5. 周辺地域の環境を維持するために、環境行政機関・団体などの環境保全活動に協力すると共に周辺の整備・清掃等の地域社会の行事に積極的に参加し社会貢献に努めます。
6. 環境教育と社内広報活動を実施し、全社員に環境方針を周知徹底すると共に、取引先にも環境方針を周知し社内外において環境保全活動の知識・認識の向上に努めます。

—この環境方針は、社内外に公表します—

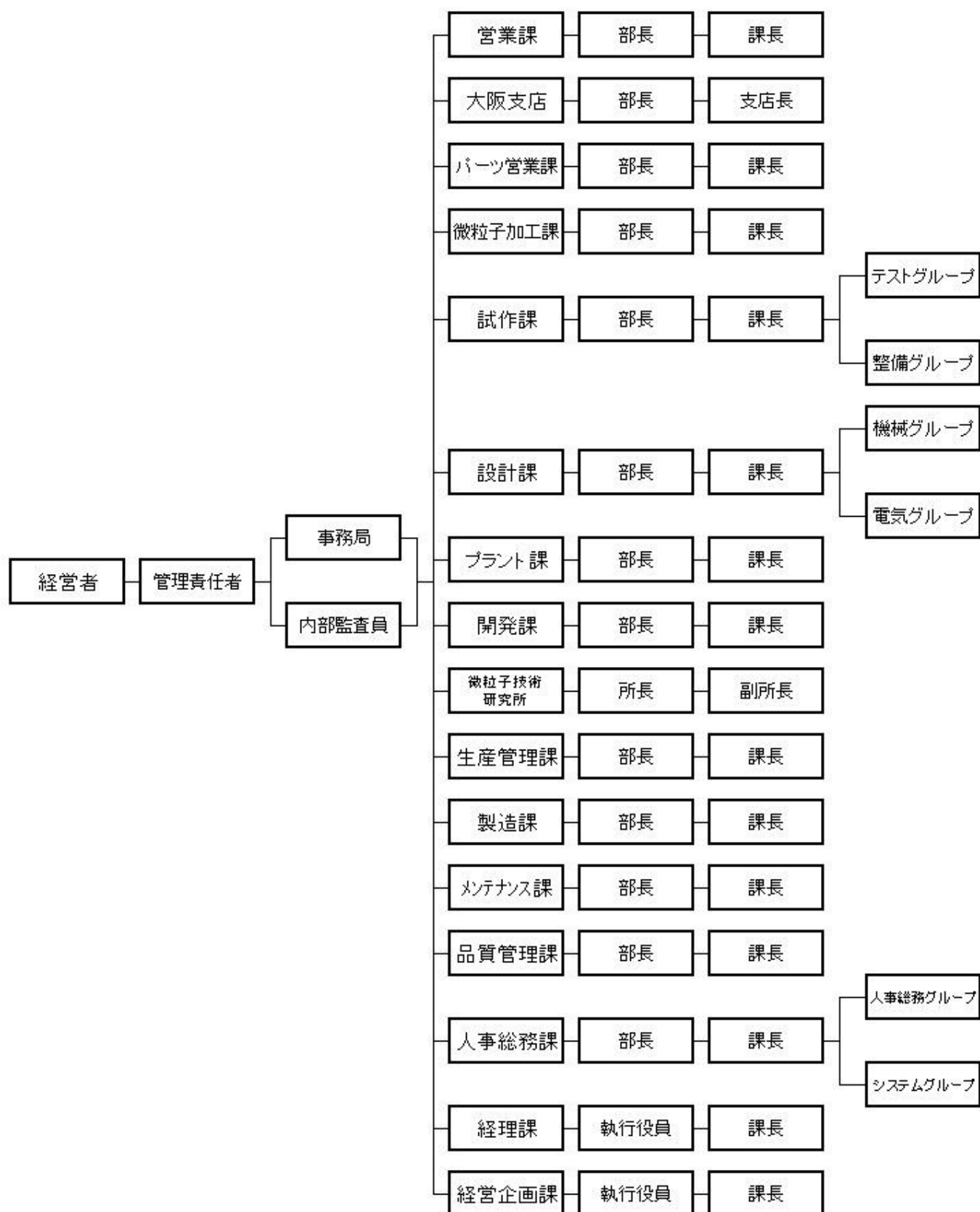
2004年1月 5日 制定

2023年4月 1日 改訂

アシザワ・ファインテック株式会社

代表取締役社長 芦澤 直太郎

5. 組織図



6. 実施及び運用

6-1. 環境目標と実績比較

2023年度以降の各指標の目標について、本社は売上目標に対して各指標の2021年度実績を原単位比（環境指標効率）とし、原単位比は2021年度の数値に対して2022年度の原単位比を100%、2023年度を99%、2024年度を98%と1%ずつ減らすように設定。、2022年度以降の売上目標に乗じて設定した。大阪支店の2022年度目標は2021年度実績同等とし、2023年度以降は一定の売り上げ増加を見込み、それを実績に上乘せした。微粒子技術研究所は今期実績並みと見込んだ。

				2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
売上[億]			目標 ①	32.00	33.00	34.60	34.60
			実績 ②	29.22	31.92		
本社	CO2	排出量原単位比	目標 ③/①	7.81	8.32	8.24	8.15
			実績 ④/②	8.32	7.55		
	排出量[t-CO2]	目標 ③	250.00	274.57	285.01	282.16	
		実績 ④	243.12	240.95 達成			
	廃棄物	排出量原単位比	目標 ⑤/①	2.36	2.40	2.37	2.35
			実績 ⑥/②	2.40	2.29		
	排出量[t]	目標 ⑤	75.60	79.06	79.69	78.90	
		実績 ⑥	70.00	73.24 達成			
	水	使用量原単位比	目標 ⑦/①	78.71	71.13	69.08	69.08
			実績 ⑧/②	71.13	69.56		
使用量[t]	目標 ⑦	2,519	2,347	2,390	2,390		
	実績 ⑧	2,078	2,220 達成				
大阪	CO2	排出量[t-CO2]	目標	10.90	12.88	13.40	13.90
			実績	12.88	10.74 達成		
	廃棄物	排出量[t]	目標	1.10	0.77	0.80	0.83
実績			0.77	0.52 達成			
水	使用量[t]	目標	54.00	132.60	137.60	142.80	
		実績	132.60	103.00 達成			
微研	CO2	排出量[t-CO2]	目標	5.12	4.64	4.64	4.64
			実績	4.64	5.54 未達		
	廃棄物	排出量[t]	目標	0.78	0.52	0.52	0.52
実績			0.52	0.86 未達			
水	使用量[t]	目標	94.00	42.00	42.00	42.00	
		実績	42.00	56.00 未達			
合計	CO2	排出量[t-CO2]	目標	266.02	292.10	303.05	300.70
			実績	260.64	257.24 達成		
	廃棄物	排出量[t]	目標	77.48	80.35	81.01	80.25
実績			71.29	74.62 達成			
水	使用量[t]	目標	2,667	2,522	2,570	2,575	
		実績	2,253	2,379 達成			

調整後排出係数 [kg-CO2/kWh]	電力事業者		2021年
	本社	東京電力	0.455
	大坂支店	関西電力	0.334

6-2. 2022 年度活動計画と実施内容

環境負荷項目		今期 目標	方策	実施内容	評価
本 社	二酸化炭素 排出量	274.57 [t-CO2]	CO2 排出量の監視と分析	CO2 排出量実績の記録 CO2 排出量データの分析	○
			排出量削減に関する取り組み	環境に配慮したエコ設計 不要箇所の消灯、節電活動	○
	廃棄物 排出量	79.06 [t]	廃棄物排出量の監視と分析	廃棄物量実勢の記録 廃棄物量データの分析	○
			排出量削減に関する取り組み	ゴミ分別方法の最適化	○
			化学物質使用量の把握	使用量の監視と記録	○
	水使用量	2347.4 [m ³]	水使用量の監視と分析	水使用量実勢の記録 水使用量データの分析	○
使用量削減に関する取り組み			節水策 雨水利用率向上策	○	
大 阪 支 店	二酸化炭素 排出量	12.88 [t-CO2]	CO2 排出量の監視 削減に関する取り組み	CO2 排出量実績の記録 データの分析 削減啓発活動	○
	廃棄物 排出量	0.77 [t]	廃棄物廃棄量の監視 削減に関する取り組み	廃棄物排出量実績の記録 データの分析、削減啓発活動	○
	水使用量	132.6 [m ³]	水使用量の監視 削減に関する取り組み	水使用量実績の記録 データの分析、削減啓発活動	○
微 粒 子 技 術 研 究 所	二酸化炭素 排出量	4.60 [t-CO2]	CO2 排出量の監視 削減に関する取り組み	CO2 排出量実績の記録 データの分析 削減啓発活動	△
	廃棄物 排出量	0.52 [t]	廃棄物廃棄量の監視 削減に関する取り組み	廃棄物排出量実績の記録 データの分析 削減啓発活動	△
	水使用量	42.0 [m ³]	水使用量の監視 削減に関する取り組み	水使用量実績の記録 データの分析、削減啓発活動	△
-	年 1 回	環境法規及びその他の要求事項の 確認・周知（専門教育）	環境法規及びその他の要求事項の順 守状況・改廃を確認する。	○	
	年 1 回	新入社員向け環境教育	ガイドライン、環境経営マニュアル 活動内容説明、理解度チェック	○	
	月 1 回	谷津干潟清掃活動	日程確認と参加の申し込み	○	
	年 1 回	緊急事態への対応教育（酸・化学物 質流出防止）、火災発生時の対応	環境上の緊急事態対応	○	

○：達成 △：未達成 ×：未実施

※自らが生産・販売・提供する製品の環境性能の向上及びサービスの改善については別途品質
目標に定めて取り組んでいる。

6-3. 環境関連法規等の遵守状況

2022年度 環境関連法規順守状況

No.	関連項目	法律・規制・制度名	該当項目	許可・届出・報告・資格等	摘要 本社
1	大気汚染	①大気汚染防止法:(定義)法第2条 ②習志野市環境保全条例:(定義)第2条	①「ばい煙」「揮発性有機化合物」「粉じん」「自動車排ガス」 ②「ばい煙」「粉じん」「自動車等」	①第2条4項「揮発性有機化合物」:安全衛生委員会による職場環境測定にて測定し対象外であることを報告。 ①第2条9項「粉じん」:鉱物、岩石、セメント用の原動機75kW以上の粉砕機ではないので、該当せず。 ②第2条4項8号「粉じん」:鉱物、岩石、セメント用の原動機37.5kW以上の粉砕機ではないので、該当せず。	-
		フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律(フロン排出抑制法)	「業務用エアコンの定期点検」	簡易点検:四半期に1回以上 定期点検(業者):1~3年に1回以上 エアコンが廃棄時、点検記録を3年間保存する事。	○
5	騒音	①騒音規制法 ②習志野市環境保全条例	特定施設:圧縮機(コンプレッサー)2台(内1台は1.5kW、1台は粉砕機(型式ラベルを除く))	①②特定工場等:敷地面積9000平方メートル以上又は建築面積3000平方メートル以上。本社敷地面積3630.73平方メートル本社建築面積2654.82平方メートルのため該当せず。 ③圧縮機の定格動力が2.2kW以上 ④粉砕機の更新中	○
6	振動	①振動規制法 ②習志野市環境保全条例	特定施設:圧縮機(コンプレッサー)2台(内1台は1.5kW、1台は粉砕機(型式ラベルを除く))	①②特定工場等:敷地面積9000平方メートル以上又は建築面積3000平方メートル以上。本社敷地面積3630.73平方メートル本社建築面積2654.82平方メートルのため該当せず。 ③圧縮機の定格動力が4.5kW以上 ④粉砕機の更新中	○
7	廃棄物	①廃棄物の処理及び清掃に関する法律(廃掃法): 「産業廃棄物の種類と具体例」 法第2条第4項、政令第2条(産業廃棄物) 事業者の責務:法第3条 事業者の処理:法第12条 委託の基準:法第12条の3 保管の基準(表示):法第12条の2	リサイクルゴミ: 一般紙・ダンボール・新聞紙・鉄・ステンレス・スチール缶・アルミ缶・ビン・ペットボトル 産業廃棄物: ゴム・ビニール・プラスチック・銅・非鉄金属・アルミ缶他 廃油:潤滑油・洗剤油→マニフェスト発行管理等	リサイクルゴミ:リサイクル業者 産業廃棄物:産業廃棄物業者 廃缶:委託業者 分別収集の強化→マニフェスト交付状況等	○
8	再資源	①資源の有効な利用の促進に関する法律(リサイクル法)	①「特定省資源業種」「特定再利用業種」「指定省資源化製品」「指定再利用促進製品」「指定表示製品」「指定再資源化製品」「指定副産物」	-	○
		①容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律(容器包装リサイクル法) ②第4条:事業者及び消費者の責務	ガラス製容器、ペットボトル、飲料用紙パック、ペットボトル以外のプラスチック製容器包装及び飲料用紙パック以外の紙製容器包装	財団法人日本容器包装リサイクル協会の動向注視	○
		①特定家庭用機器再商品化法(家電リサイクル法)	①「特定家庭用機器」の処理について	廃棄する際リサイクル券を購入	○
9	化学物質	①特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律(化管法) ②PRTR制度	①②「第一種指定化学物質」「特定化学物質」	①②第一種指定化学物質(DMAC)使用量年間1t以上→2022年取扱量:8.0t、該当→届出済 ①②第一種指定化学物質(トルエン)使用量年間0.5t以下→2022年取扱量:1.0t、該当→届出済	○
		①消防法	①「危険物の保管管理」「危険物貯蔵庫の設置」「少量危険物の取り扱い」の届出	習志野消防本部へ届出。	○
		①毒物及び劇物取締法	①「試薬類保管施設施設」	施設担当者(試作課)を任命、使用記録にて管理。	○
		①労働安全衛生法	①「安全衛生管理者選任届」「有機溶剤中毒防止規則」「特定化学物質障害予防規則」	船橋労働基準監督署へ届出、有機溶剤、特化物使用の際は有資格者が行なう。リスクアセスメントに関してISO45001「リスクアセスメント管理規程」にて管理。	○
10	自動車	①自動車から排出される空素酸化物及び粒子状物質の特定地域における総量の削減等に関する特別措置法第十二条:空素酸化物排出基準等	①「自動車」「自動車排出空素酸化物」「自動車排出粒子状物質」	軽油を燃料とする普通トラック(400番台ナンバー)所有。 車検時に排出基準に適合の記載有り。	○

6-4. 化学物質使用状況

2022年度に試作、受託加工等で使用された化学物質の使用状況は下記の通り。

2022年度 化学物質使用状況（リットル）

	化学物質	消防法	合計
P R T R 法 対 象 物	イソパレソ	2 石非水	0
	イソソリソ	3 石水溶	0
	キシソ	2 石非水	374
	メソ	2 石非水	0
	イソメソ	2 石水溶	0
	トルソ	1 石非水	1,023
	DMAC	2 石水溶	8,062
	合計	-	9,459
主 要	IPA(2-ブメソ)		14,800
	MEK(2-ブメソ)		8,577
	アセソ		3,066
	エタソ		4,273
	ソルミックス		140
そ の 他	メタソ	アルコール	175
	NMP	3 石水溶	20,922
	MIBK	1 石非水	184
	ソナ-	1 石非水	0
	その他（1 石水溶性）	-	2,452
	その他（1 石非水溶性）	-	13,374
	その他（アルコール系）	-	16,224
	その他（2 石水溶性）	-	5,482
	その他（2 石非水溶性）	-	8,756
	その他（3 石水溶性）	-	21,419
	その他（3 石非水溶性）	-	15,602
	その他（4 石）	-	11,376
その他（動植物）	-	2,656	
合計		149,477	

7. 取組状況の確認及び評価

2022年度は全体的に目標値に対して下回っている（クリアしている）。

本社は2022年度の「CO2排出量」「廃棄物排出量」「排水量」の環境経営目標について、すべて目標値を達成した。また、売り上げに対するそれぞれの排出量とのバランスを見る指標である『原単位比』についても、すべての項目について設定値を下回った。原単位比は2021年度実績をベースとしており、この設定値を下回することは2021年度（昨年度）より環境指標の効率が良いことを示すものである。

なお、社会的にコロナ禍の影響下であることを示す『緊急事態宣言』が解除されたのが2021の10月1日であり、2022年度には直接的な影響は少なくなっている。

大阪支店は「CO2排出量」「廃棄物排出量」「排水量」の環境経営目標について、すべて目標値を達成した。

微粒子技術研究所は2022年度の「CO2排出量」「廃棄物排出量」「排水量」の各環境指標の目標数値に対し、すべての項目で目標の数値を上回り、未達となっている。原因としては、コロナ禍の退潮により在宅勤務率が下がった（2021年度：43.7%→2022年度：24.0%）こと、メカノケミカルの共同研究のための実験が増えたこと、廃棄物においては年度末に微粒子技術研究所の場所を移転したため、通常より多くの廃棄物が出たことが要因として考えられる。2023年度には研究所を神鳥谷から犬塚に移転しており、今期の排出量の実績値が今期以降の排出量の指標となる。

8. 代表者による全体の評価と見直し

＜代表者のコメント＞

2022年度より経営合理化のための組織体制の変更を行い、環境活動の管理部門をEA21委員会から人事総務課へ移管した。担当組織としての人員数は減ったが、情報の集約を効率化することで質を落とさないように環境負荷要因への対応を行っている。

コロナ禍のもと、ここ数年は環境よりも感染対策を優先する状況であったが、5月よりコロナ感染症の位置づけが5類となった。ここ数年のうちに入社した社員は本来の環境の取り組みを知らない可能性もあり再度周知する必要がある。

環境活動はEA21として定量的に数字を求めるだけでなく、業務に落とし込むことに注力している。事業に結び付いた環境活動が取り組めるようにする事により、当社の使命と目的を達成できるものと考えている。

9. 2023 年度活動計画と実施内容

環境負荷項目		今年度目標	方策	実施内容
本社	二酸化炭素 排出量	285.01 [t-CO2]	CO2 排出量の監視と分析	CO2 排出量実績の記録 CO2 排出量データの分析
	廃棄物 排出量	82.06 [t]	廃棄物排出量の監視と分析	廃棄物量実勢の記録 廃棄物量データの分析
			化学物質使用量の把握	使用量の監視と記録
	水使用量	2436.6 [m ³]	水使用量の監視と分析	水使用量実勢の記録 水使用量データの分析
			使用量削減に関する取り組み	節水策 雨水利用率向上策
	大阪支店	二酸化炭素 排出量	13.40 [t-CO2]	CO2 排出量の監視 削減に関する取り組み
廃棄物 排出量		0.80 [t]	廃棄物廃棄量の監視 削減に関する取り組み	廃棄物排出量実績の記録 データの分析 削減啓発活動
水使用量		137.6 [m ³]	水使用量の監視 削減に関する取り組み	水使用量実績の記録 データの分析 削減啓発活動
微粒子 技術 研究所	二酸化炭素 排出量	4.64 [t-CO2]	CO2 排出量の監視 削減に関する取り組み	CO2 排出量実績の記録 データの分析 削減啓発活動
	廃棄物 排出量	0.52 [t]	廃棄物廃棄量の監視 削減に関する取り組み	廃棄物排出量実績の記録 データの分析 削減啓発活動
	水使用量	42.0 [m ³]	水使用量の監視 削減に関する取り組み	水使用量実績の記録 データの分析 削減啓発活動
-	年 1 回	環境法規びその他の要求事項の確 認・周知（専門教育）	環境法規及びその他の要求事項の 順守状況・改廃を確認する。	
	年 1 回	新入社員向け環境教育	ガイドライン 環境経営マニュアル 活動内容説明 理解度チェック	
	内部監査教育 1 回	EA21 委員向け環境教育	EMS、ガイドライン説明 内部監査員教育	
	月 1 回	谷津干潟清掃活動	日程確認と参加の申し込み	
	年 1 回	緊急事態への対応教育 (酸・化学物質流出防止) 火災発生時の対応	環境上の緊急事態対応	

10. 環境配慮の取り組みと社会貢献活動

10-1. エコキャップの推進

環境保全活動の一貫としてエコキャップ活動にも参加しています。提供したエコキャップはボールペンやバイクのフェンダーなどのリサイクル製品の材料となる再生プラスチック原料として換金され、医療支援や障害者支援、子供たちへの環境教育など、様々な社会貢献活動にあてられています。



10-2. 谷津干潟清掃

月に1回谷津干潟の清掃ボランティアに参加。池の草刈りといった清掃活動を中心に実施。



10-3 ユースエール認定



ユースエールとは、若者の採用活動や育成活動を積極的に実施し、雇用の状況が優良であると認められる中小企業に対して厚生労働省が認定を行うものであり、弊社は千葉県内で初のユースエール認定企業として表彰された。

10-4. SDGs(Sustainable Development Goals)への取り組み



SDGsとは、国連にて採択された国際社会共通の目標で、2030年までに解決すべき17の課題を表す。弊社においても、SDGsに積極的に関わっていくため、事業との照らし合わせを行っていくと同時に、課題解決に向けて貢献していく。